

討 論

本会議最終日に各委員会審査の委員長報告を受けて、各党派が賛成、反対の意見を述べ、賛同を求めました。

市長提出議案

○『平成20年度一般会計予算』

自民清風会は、「『安全・安心で活気に満ちたまちづくり予算』とされた平成20年度予算には、安全・安心なまちづくり、都市基盤の整備、子育て支援、教育文化の振興という4項目の重点事項が挙げられている。全体としては21年度を初年度とする第6次総合計画の策定を視野に入れた個別事業の基本調査や、将来計画に関する取り組みが多く、20年度は本市の新たなスタートになるものと期待する」と意見を述べ、賛成した。

ゆうあい21は、「郊外地区や中山間地区から市民病院へ向けたバスの実証運行を行うなど、交通弱者の救済や安全で住み良い快適な交通社会の構築を推進する施策が計画されている。また、特別会計も含めそれぞれ細部にわたりにきめ細やかな予算化がされている。執行に当たっては、無駄をなくし節減に努めるよう要望する」と意見を述べ、賛成した。

公明党は、「子ども医療費の無料化の拡大は長年要望してきたこと

であり評価する。また、げんき館内では待望の子ども発達サポート事業が実施されるが、十分な体制による親切丁寧な対応を要望しておく。歳入については、景気の先行きが不透明な中で、市民生活に直結した施策展開のための財源確保に向けて努力しており評価する」と意見を述べ、賛成した。

日本共産党岡崎市議団は、「行政評価制度と公会計制度の導入は、

利益を追及しない市の財政処理にはなじまない。また、後期高齢者医療は、高齢者に差別医療や保険料を新たに課すものであり、障害者自立支援法も根本的な見直しでなく、市独自の減免制度も作られていない」とし、反対した。

民主クラブは、「大型プロジェクト完成の影響により、国庫補助金や市債などが減額しているが、市税

などは増額を見込むことができた。結果として昨年度に比べ32億円の歳入減となったが、平常の年の予算としてはしつかりしたものだ」と認識する。歳出も安全・安心予算として均衡が取れている」と意見を述べ、賛成した。

○『平成20年度病院事業会計予算』

ゆうあい21は、「患者数の減少に伴う収益の減少も見られるが、医師公舎借り上げ礼金や研修費の増額などにより医師の確保に努めている。また、第三次救急医療を担う中核的

総合病院としての医療水準を確保し、

多様化する患者ニーズに対応するための医療機器の充実も図っている」と意見を述べ、賛成した。

公明党は、「嘱託の専攻医を正規職員にすることなど、身分の安定を図ることによる医師の環境改善を進めている。医師の確保策としては、

将来にわたり信頼される病院の体制を作ることが重要であり、今後の努力を期待する」と意見を述べ、賛成した。

日本共産党岡崎市議団は、「医

師の確保が困難になっている中で、専攻医の正規職員化や産婦人科医師の増員を進めたことは、医療職の過重労働の解消としても評価できる。しかし、今回は助産費などの大幅な引き上げがある」とし、反対した。

民主クラブは、「全国的に厳しい状況にある中で医師と看護師の増員を果たしており心強く感じる。更に経営改革にも努められ、市民の命と健康を守る病院として更なる前進を期待する」と意見を述べ、賛成した。

○『平成20年度水道事業会計予算』

ゆうあい21は、「水道ビジョンの策定が10年計画でスタートするが、水道料金収入の大幅増を見込むことができず中での経営戦略や、今後に取り組むべき施策を策定するものだ」と理解する。また、現状においても铸铁管の敷設替えや施設の耐震補強など、多岐にわたる事業に尽力している」と意見を述べ、賛成した。

公明党は、「男川浄水場の大規

模更新に備え、徹底したコスト削減を行って財源を確保するよう要望する。また、今後の方向性や具体的な施策を計画的に実行していくための水道ビジョンの策定により、安全で安心な水の安定供給に一層努めてほしい」と意見を述べ、賛成した。

日本共産党岡崎市議団は、「料金改定時の計画では毎年5億円としていた男川浄水場改修事業の積立金が9億5800万円計上されている。命にかかわる水道料金はできるだけ安くすべきであり、余剰金は積み立てよりも料金の引き下げに使うべきである」とし、反対した。

民主クラブは、「震災を想定して、主要施設や避難所に通じる導水管の耐震化を新たに加えている。給水収益の大幅な拡大は難しい状況であるので、経費節減や将来を見据えた水道ビジョンの策定によって、おいしくて安全な水道水の供給に努めてもらいたい」と意見を述べ、賛成した。



男川浄水場